

会 議 録

全部記録 要点記録

1 会議名	令和6年度 第3回(第6回) 姫路市下水道事業経営懇話会
2 開催日時	令和6年11月21日(木曜日) 10時00分～11時20分
3 開催場所	姫路市役所北別館2階 205会議室
4 出席者又は欠席者名	(出席者) 委員5名(欠席者3名) (事務局) 上下水道事業管理者、上下水道局次長、経営管理部長他 上下水道局職員9名
5 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴可、傍聴人0名
6 議題又は案件及び結論等	1 開会 2 説明・意見交換 3 閉会
7 会議の全部内容又は進行記録	詳細については別紙2のとおり

姫路市下水道事業経営懇話会 委員名簿

(順不同、敬称略)

	氏 名	所属及び役職名
学識経験者	瓦田 沙季	公立学校法人 兵庫県立大学 大学院 社会科学研究科 教授
	井上 正人	公認会計士・税理士
	尾崎 平	学校法人 関西大学 環境都市工学部 都市システム工学科 教授
下水道使用者の代表者	近藤 誠一	大阪ガス株式会社 姫路地区統括支配人
	浅田 敦之	姫路商工会議所 理事 兼 事務局長
	利根 康廣	姫路市連合自治会 副会長
	岩田 稔恵	姫路市連合婦人会 会長
	長谷川 恒子	公募市民

令和6年度第3回（第6回）姫路市下水道事業経営懇話会 会議録（要約）

10時00分 開会

事務局による説明

「改定後の下水道使用料について」

「新下水道事業経営戦略について」

【質疑要旨】

座長	<p>「改定後の下水道使用料について」 「新下水道事業経営戦略について」</p> <p>どの自治体も大変厳しい経営環境の時代に入り、今後、人口減少や物価上昇だけでなく、老朽化施設の更新、改築など投資の増加に対応するため、定期的の使用料の見直しを検討していかざるを得ない状況になると思われる。姫路市では下水道使用料の改定に関する条例改正の議案が上程され、これが議会で承認されれば令和7年度から新たな使用料となるが、今後、使用料の見直しに当たっては、物価上昇等に伴うコストの増加を全て使用料に転嫁するのではなく、経費の削減等、内部努力でコストの増加を抑制できるよう、引き続き工夫をお願いしたい。</p> <p>また、経営戦略の概要版を初めて作成したが、概要版やパブリック・コメントの実施だけでは市民の理解を得にくいと思う。経営戦略で立てた目標をPDCAのサイクルで回す中、1年間で何に取り組み、どういう効果があったのか、内部でなされてきた努力を市民に説明するとともに、人口減少、使用水量の減少、物価の上昇、耐震化、耐水化など、経営環境の変化についても市民に対してタイムリーに情報発信し、対話を重ねることが必要である。市民とのコミュニケーションをより密にし、下水道事業の維持にはどれだけお金がかかり、また、市民がどれだけ負担する必要があるのかを理解してもらえよう、今後も努力をお願いしたい。</p>
委員	<p>使用料改定のタイミングは、市民に色々なことに目を向けてもらうチャンスである。ただ、この度の使用料改定については、他の自治体と比べても市民への説明の期間が短いように思うし、説明が不十分であると市民から行政への不信感が募ってしまう。市民への説明のチャンスを活かすため、また、行政の透明性を確保するため、市民と積極的にコミュニケーションをとって、情報発信に努めてほしい。</p>
委員	<p>値上げの必要性は懇話会を通して話を聞いてきたので理解できるが、一市民としては、値上げしてほしくないということが本音である。なぜ値上げが必要なのか、しつこいぐらい説明した上で取り組んでほしい。</p>
委員	<p>水は命を守るもののため、値上げしてほしくないということが市民の本音だと思う。仕方がないというより、なぜ値上げするのかを市民が理解した上で上げるよう</p>

	<p>にしてほしい。安全安心の上下水道サービスを継続するために必要であるとしっかり説明してほしい。</p>
委員	<p>値上げに関しては反対ではないが、まだかかっている費用を今の住民が負担する資産維持費については、個人としては納得していない。懇話会としては今回の値上げに賛成ではあるが、しっかりと説明を続けてほしい。</p>
事務局	<p>なぜ値上げをする必要があるのか、理由を市民に適切に伝えることが最も重要だと考えている。経営戦略の概要版以外でも、使用料改定について、市民向けの広報誌を準備している。資産維持費の計上を含め、市民の方に理解いただけるよう、今回だけでなく毎年度、情報発信を続けていきたいと考えている。</p>
座長	<p>かかっている費用について、今の使用者が負担することに納得できないということは理解できる。ただし、今後、物価上昇、支払利息の利率の上昇、人口減少等を踏まえると、将来の使用者の負担が大幅に増えることが予想される。将来の負担増を少しでも抑えるため、資産維持費の計上については理解頂きたい。</p>
委員	<p>人口減少や施設の老朽化は、リスクではなく確定事項なので、それに備えることは当然に必要である。一方で、それを誰がどう負担するのかは議論が必要である。将来の方が脆弱な状態になることが予想されるため、現役世代が備えるべきであるのか、それとも将来の市民の人たちが負担するのか、議論を継続していけばいいと思うが、現役世代は国の補助金や工事負担金、受贈財産等があり、これまで恩恵を受けてきたという部分からいうと、現役世代が負担することは致し方ないと、個人的には思うところである。</p> <p>また、使用料改定について、改定率が水量区分によって異なる理由については説明が必要である。ほとんどの人は、自分は適正な額を払っていると思っているので、値上げによる負担割合の増加の違いは、丁寧に説明する必要がある。一方で、姫路市は有収率が低く、これを改善しないことには何のために使用料を払っているのか理解されない。出ていく費用については、不明水の対策により、有収率が中核市平均の80%程度になることでかなり改善される可能性がある。次回の使用料見直しの議論においては、次の5年間でどれだけ経営状況が改善されるかが重要であるので、積極的に取り組んでほしい。</p>
事務局	<p>不明水対策については、経営戦略の重点施策としており、積極的に取り組んでいきたい。</p> <p>改定率が水量区分によって異なる理由については、丁寧な説明が必要であることは承知している。簡潔に説明するのが難しい部分ではあるが、今後、広報誌や動画などの中で、職員一同知恵を絞って説明に努めていきたい。</p>
	<p>以上</p>

11時20分 質疑終了、閉会